

きゅうしゅう

No.36

目次 CONTENTS

1. 部隊紹介

航空自衛隊 下甕島分屯基地

2. 自治体紹介～鹿児島県 薩摩川内市～

3. 九州防衛局業務紹介

4. インフォメーション



▲固定式3次元レーダー



▲鳥の巣山展望所(下甕島)



薩摩川内市



九州防衛局 Kyushu Defense Bureau

<http://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/>

編集・発行

九州防衛局 総務部 福岡市博多区博多駅東2丁目10-7 福岡第2合同庁舎 TEL092-483-8811

1. 部隊紹介 航空自衛隊下甌島分屯基地



分屯基地司令



第9警戒隊長兼
下甌島分屯基地司令
2等空佐 山木 隆博
(やまき たかひろ)

九州防衛局広報誌「きゅうしゅう」をご覧の皆様こんにちは。航空自衛隊第9警戒隊長兼ねて下甌島分屯基地司令の山木です。

下甌島分屯基地は、薩摩半島西方約50kmの下甌島の中央部山岳地域に所在しており、昭和28年7月米空軍のレーダー基地として建設され、昭和30年には航空自衛隊が下甌島に展開し、昭和33年、航空自衛隊の第1号レーダーサイトとして正式に移管を受けました。因みに航空自衛隊で最初に移管を受けたことから、当部隊は「魁（さきがけ）」の部隊と言う愛称、別名があります。以降半世紀以上にわたり、部隊改編、装備品や施設の新設改修等を経て今日に至っています。また、平成21年に弾道ミサイルに対応した警戒管制レーダーJ/FPS-5、通称カメラレーダーを配備し、昼夜を問わず、24時間365日常続不断の運用を整斉と実施し、警戒監視及び弾道ミサイル対処の要として極めて重要な役割を果たしています。

当分屯基地では、毎年、基地開庁記念行事等の開催や地域行事への積極的な参加を通じ、地域住民の方々に部隊の理解を深めて頂いております。地元の方々にご理解を頂き、この地に展開してきて以来、常に下甌島の一部となることに努め、頼られる存在になりたいと思いつけて活動してきた先輩方の歴史を回顧しつつ、良き伝統を引き続き、必要な見直しや改革を不断に行い、更なる精強化のため精進を重ねる所存ですので、今後ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



(背景：下甌島分屯基地正門)





▲▶24時間365日警戒監視を行っている通称ガメラレーダー



- ①ヘリコプター体験搭乗
- ②警備訓練
- ③基地追悼式
- ④薩摩川内市父兄会記念植樹
- ⑤鹿児島みなと祭り出羽踊り支援
- ⑥こしきしまアクアスロン大会支援
- ⑦ナポレオン岩
- ⑧鹿の子百合





2. 自治体紹介

～鹿児島県 薩摩川内市～



市章

薩摩川内市の頭文字Sと川内川の形状を組み合わせたデザインです。緑は田園と山々の自然のやすらぎを、青は海、川、湖などの水のうおいを表し、広い面積を有する薩摩川内市が一体となって地域力・都市力を発揮し、明るい未来に向けて力強く躍動する姿を表現したものです。

「人と地域が躍動し
安心と活力のあるまち
薩摩川内」を目指して

薩摩川内市長 岩切 秀雄
(いわきり ひでお)



▲薩摩川内市の
ブランドロゴマーク

ロゴマークの意味

- 【青】 甌の海や川内川を表現。研究し見極めようとする「探求する心」を象徴。
- 【赤】 かのこゆり、ハート(心)を表現。人や文化を「受け入れる心」を象徴。
- 【緑】 薩摩川内市の大自然を表現。伝統や信念を「守り抜く心」を象徴。
- 【黄】 明るい街並や豊かな食を表現。先んじて「取り組む心」を象徴。

〒895-8650
鹿児島県薩摩川内市神田町3番22号
ホームページアドレス：
<http://www.city.satsumasendai.lg.jp>

市長あいさつ

本市は豊かな自然を背景に、多様な文化や特産品、人材を育んできました。ラムサール条約に登録された^{いむたし}藺牟田池は、国内希少野生動植物種であるベッコウトンボが生息し、四季を通して美しい表情を見せてくれます。市内には多くの温泉場を有し、市民に親しまれています。

また、東シナ海上に位置する甌島は、平成27年3月には国定公園に指定され、太古の地球が築いた雄大で豊かな自然を堪能することができます。

1市4町4村の合併で誕生した本市も、平成28年10月で12周年を迎えました。今後も人と地域が躍動し、活力あるまちを目指し、本市の特徴を活かした生活しやすく交流しやすい環境づくりを進めて参ります。

薩摩川内市と自衛隊の関わり

本市には昭和60年に北熊本駐屯地から移駐された、陸上自衛隊西部方面隊第8師団第八施設大隊川内駐屯地と、昭和28年に米軍によりサイト建設され、昭和33年に米軍より日本で最初のサイトとして移管された、航空自衛隊西部航空警戒管制団第9警戒隊下甌島分屯基地の2隊があります。それぞれの隊が昨年度は創設30年、60年を迎えました。

隊員の皆様には、「川内大綱引」や「薩摩川内はんやまつり」、「こしき島アクアスロン大会」などの地域イベントに積極的に参加していただいているほか、防災や離島医療など様々な分野で地域に貢献いただいています。

(背景: 寺山公園からの市街地)

◇かずらたて

上飯島の里町に伝わる十五夜行事。
くず岩を平ねて作った大綱を大蛇に見立てて捧げ持ち、
町を練り歩きます。

いむたいけ けどういんちょう
◇蘭牟田池の桜 (祁答院町)

春の蘭牟田池はお花見客で
にぎわいます。



◇キビナゴ丼

飯島特産の新鮮なキビナゴをツケにした丼。



◇川内大綱引

大綱は当日に自衛隊員から
も協力をいただき練り上げ
たもの。
大綱引でも、自衛隊員の参
加をいただいています。



◇鶴穴 (下飯島)

数多くの巨石や奇岩が連なる鹿島断崖の見所の一つが鶴穴。
東シナ海の荒波により、鶴が羽を広げたような形となった
岩穴の姿から名付けられました。



3. 九州防衛局業務紹介 労務対策官

駐留軍労働者(在日米軍従業員)の労務管理等について

我が国には、日米安全保障条約に基づき、アメリカ合衆国軍隊(以下「在日米軍」という。)が駐留しており、在日米軍の任務遂行のために必要な労働力は、日米地位協定により我が国の援助を得て充足されることになっています。

防衛省は、在日米軍が必要とする労働力を提供するため、在日米軍との間で労務提供契約を締結しており、これに基づいて防衛省は在日米軍基地で勤務する駐留軍等労働者(以下「従業員」という。)を雇用しています。

現在、全国の在日米軍施設において、約26,000人の従業員が勤務しておりこのうち、九州防衛局管内では、約1,700人の従業員が勤務しています。

これら、在日米軍基地で働く従業員の雇入れ、提供、労務管理、給与及び福祉厚生などの業務を佐世保防衛事務所及び独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構佐世保支部において行っています。

(背景:弓張岳から佐世保港を臨む)

◇消防員、警備員等として保安業務に従事しています。



◇庶務、会計、通訳などの事務関係、建築、土木、機械などの技術関係業務に従事しています。



◇その他にも、清掃、ウェ이터などの労務関係、保守点検、運転などの技能関係、医療関係など多種多様な業務があります。

4. インフォメーション

■佐世保地区の発注予定工事の現地視察会の開催

平成28年9月14日(水)に佐世保商工会議所主催の佐世保地区の発注予定工事の現地視察会が行われ、29社38名が参加しました。

参加者は、商工会議所がチャーターしたバスに乗り込み、陸上自衛隊相浦駐屯地及び崎辺分屯地(仮称)の各工事予定場所で、九州防衛局國武調達計画課長から工事概要の説明を受けました。

九州防衛局としては、このような機会も得ながら、引き続き、地元企業の受注機会の確保に努めていきます。



崎辺分屯地(仮称)の建設予定現場の説明状況



相浦駐屯地の建設予定現場の説明状況

■第11回米軍基地・西海市親善ソフトボール大会開催

平成28年10月16日(日)、佐世保市の米海軍佐世保基地関係者と西海市民が参加する「第11回米軍基地・西海市親善ソフトボール大会」が横瀬浦公園グラウンドで開催されました。始球式はマシューD・オヴィオス米海軍佐世保基地司令官によって行われ、基地側から軍人・女性らで3チーム、西海市側は、地域住民・ソフトボール愛好者等で3チームの日米合わせて約90人が参加し、ソフトボールを楽しみました。

試合は、白熱した戦いが繰り広げられ、好プレーに歓声が上がりました。

試合後は交流会が行われ、米海軍基地関係者と地元住民の親睦を深めることができ充実した1日となりました。



親睦を深めた日米両選手

■平成28年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式

平成28年10月18日(火)に米海軍佐世保基地において、平成28年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式が行われました。

この表彰式は、佐世保地区に所在する在日米軍施設に永きにわたり勤務された104名の従業員に対し、その労をねぎらい、併せて労働意欲及び作業能率の向上を図ることを目的として、日米共催で実施されたものです。

表彰式は、日米両国国歌吹奏の後、川嶋局長から「永年勤続者の方々へ、これまでの御苦勞と御努力に対して、心からの敬意を表し、皆様方の働きが、在日米軍の円滑な運用に寄与し、日米安全保障体制を支えています。」との式辞が、マシューD・オヴィオス米海軍佐世保基地司令官から「皆様の貢献的な支援なしでは任務は遂行できず、なくてはならない存在であり、これらは在日米軍従業員の皆様のおかげです。」との式辞が、それぞれ述べられました。



表彰状を授与される在日米軍従業員



被表彰者の代表挨拶

■第32回防衛問題セミナーの開催

平成28年11月24日(木)、大分県別府市の「ビーコンプラザ国際会議室」において、「大規模自然災害への備え」と題し、九州防衛局主催の『第32回防衛問題セミナー』を開催しました(来場者約180名)。

第1部では、防衛省統合幕僚監部参事官 吉田 正法氏より、“大規模自然災害時の自衛隊の役割”を、第2部では陸上自衛隊第41普通科連隊長(別府駐屯地司令) 泉 英夫 1等陸佐より“災害派遣活動と今後の課題”をテーマに講演されました。

今回のセミナーには、多くの方に来場していただき、来場された方々からは、「自衛隊が常日頃から災害発生に対して備えを万全にしている状況が理解できた。」「地域特有の災害対処要領などについて知ることができて良かった。」などの感想が寄せられ、好評いただきました。



吉田 正法 統合幕僚監部参事官



泉 英夫 第41普通科連隊長



講演風景

■新型護衛艦「あさひ」命名・進水式

平成28年10月19日(水)、三菱重工業株式会社長崎造船所において新型護衛艦の命名・進水式が行われ、「あさひ」と命名されました。

式典には、防衛省関係者約1300人が参加し、若宮防衛副大臣が命名書を読み上げ「あさひ」と命名すると、海上自衛隊佐世保音楽隊がファンファーレを演奏するなか、艦首付近の甲板から垂れ幕が下り、艦名が披露されました。

続いて、若宮防衛副大臣が支綱を斧で切断するとくす玉が割れ、「あさひ」はゆっくりと海上に滑り出しました。

「あさひ」は、海上自衛隊護衛艦としては初めて、ガスタービン推進に加え電気推進システムを組み合わせたハイブリッド護衛艦として建造され、最大速度30ノット、基準排水量は約5100トン、全長151メートル、幅18.3メートル、新型の水中音波探知機を備えています。今後、ぎ装工事が施され、平成30年3月に就役する予定です。

式典後、祝賀会が執り行われ、長崎防衛支局主任完成検査官から若宮防衛副大臣へ進水後船体点検報告がなされ、若宮防衛副大臣からは、「引き続き、監督・検査に遺漏なきよう、しっかりと勤めていただきたい。」とのお言葉を頂きました。



護衛艦「あさひ」と命名し、支綱を斧で切断する若宮防衛副大臣



進水後船体点検報告



進水する護衛艦「あさひ」

佐賀空港における在沖米軍MV-22オスプレイの騒音測定の結果について

- 平成28年11月8日(火)、防衛省は、佐賀空港における在沖米軍MV-22オスプレイの展示飛行に合わせて騒音測定を実施
- 展示飛行の実施内容
 - 悪天候時の経路の飛行(計器飛行方式による飛行(図1:着陸時の経路、図2:離陸時の経路))
 - 基本的な経路の飛行(有視界飛行方式による飛行(図3:南側場周、北側場周))
 - 滑走路上でのホバリング

□ MV-22が各経路を飛行した際の騒音を測定した結果、騒音の最大値は以下のとおり

【悪天候時の経路の飛行】(図1・2)

①白石町八平及び⑩海上で、75dB(デシベル)

【基本的な経路の飛行】(図3)

- 南側場周経路(高度約300m)において、
⑨海上で74dB
- 北側場周経路(高度約300m)において、
③川副町小々森で71dB

【滑走路上でのホバリング】※1

⑨海上で74dB ※1:ホバリングを高度約10m~約50mで実施した際の最大値



MV-22オスプレイ



※2:調査経路を表した模式図であり、実際の飛行経路とは完全に一致しない場合がある。

| 経路 | | 飛行順序 | ①白石町八平 (ふくどみマイランド公園) | ②佐賀市東与賀 (大授一区公民館) | ③-1川副町小々森 (養豚場付近) | ③-2川副町小々森 (西千拓公民館) | ④川副町大井道 (海童神社) | ⑤川副町早津江 (JA跡地) | ⑥川副町大詫間 (大詫間公民館) | ⑦大川市紅粉屋 (大川柳川衛生組合) | ⑧柳川市大浜町 (村山公民館) | ⑨海上 (31鋼管(のり養殖の区画標識)) | ⑩海上 (早津江川タワー) |
|-----------------------|----------|------|-------------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|-------------------|-------------------|---------------------|-----------------------|--------------------|--------------------------|------------------|
| 図1 | 柳川方向から進入 | 1 | - | 67 | 58 | 57 | - | - | - | 51 | 72 | 75 | 64 |
| | 白石方向から進入 | 3 | 75 | 68 | 71 | 58 | - | - | - | - | - | 65 | 57 |
| 図2 | 柳川方向へ離陸 | 2 | - | 59 | 59 | 53 | - | - | - | - | - | 58 | 65 |
| 図3 場周経路 (約300m) | 南側1回目 | 5 | - | 58 | 59 | 54 | - | - | - | 51 | - | 74 | 58 |
| | 南側2回目 | 6 | - | 54 | 59 | 56 | - | - | - | 54 | 51 | 74 | 55 |
| | 南側3回目 | 7 | - | 57 | 58 | 53 | - | - | - | 55 | - | 72 | ※3 |
| | 北側 | 4 | 57 | 64 | 71 | 67 | - | - | 52 | 52 | - | 58 | - |
| 図3 場周経路 (約500m) | 南側1回目 | 8 | 50 | 58 | 61 | 56 | 56 | - | - | 58 | - | 61 | 68 |
| | 南側2回目 | 9 | - | 63 | 61 | 54 | 54 | - | - | 54 | - | 64 | 60 |
| ホバリング | | 10 | - | 66 | 57 | 52 | - | - | - | - | - | 74 | 64 |

凡例:「-」は、50dB以下であり、生活音に包含され区別できない程度

※3:該当地点を他船舶が通過し、測定出来ず。

九州防衛局では不測の事態に対応するため、夜間・休日を問わず連絡体制を確保しております。

夜間及び休日の連絡先

電話:(092)483-8832 FAX:(092)472-1959

・平日は17時から18分前から翌朝5時30分まで、休日は毎日。
・上記以外の時間帯は各防衛施設等へご連絡下さい。
http://www.mmod.go.jp/rd/b/kyushu/